

■ 平成 26 年度 定期総会

5月22日(木)、栃木県薬事工業会の平成26年度定期総会が、宇都宮市上大曾町の「ホテル東日本宇都宮」にて開催されました。

松谷会長のあいさつ、来賓の高山薬務課長の祝辞に続き、厚生労働大臣感謝状の伝達式が行われました。この感謝状は、東日本大震災において、当会が行った被災者支援活動に対して厚生労働大臣から贈られたもので、当日は、高山薬務課長から松谷会長に伝達されました。平成23年3月に発生した東日本大震災において、当会では、栃木県からの要請に応じ、各社も被災した中、備蓄していた一般用医薬品・衛生材料・カイロ等を県内46箇所の避難所に配布しました。これらの功績により、平成26年3月11日に厚生労働大臣から当会に対し感謝状が贈られ、総会の席上での伝達式となった次第です。

続いて、議事に移り、当会の規約により会長が議長となり、まず、事務局から出席者の報告（正会員52社のうち、出席28社、委任状提出16社）があり、総会が成立していることが確認されました。

議長が議事録署名人2人（三和生薬株式会社・岡田氏、株式会社タスク・菅沼氏）を指名したのち、第1号議案「平成25年度事業報告」と第2号議案「平成25年度収支決算報告」が一括上程され、興和株式会社の栄谷監事の監査報告の後、慎重に審議された結果、原案どおり承認されました。

続いて第3号議案「平成26年度事業計画（案）」と第4号議案「平成26年度収支予算（案）」についても同様に原案どおり可決されました。

第5号議案の役員改選については、議長が役員（理事と監事）の選出方法について諮ったところ、執行部一任となり、執行部案を提示したところ異議がなく、役員全員の留任が決定しました。

最後にその他として、創立40周年記念大会の開催と記念誌の発行について、担当の富永副会長から説明と協力のお願いがあり、総会は終了しました。



松谷会長あいさつ



高山薬務課長祝辞



厚生労働大臣感謝状

■平成 26 年度 事業計画

定期総会で可決された平成 26 年度の事業計画は次のとおりです。

- 1 講習会・研修会の開催（県との共催により、GMP関連研修会等を開催する。）
- 2 国及び県からの通知・通達の周知（薬事法などの法令に関する通知等を会員に周知する。）
- 3 申請・届出書類等の様式の配布（薬事関係の申請・届出等に必要な様式を会員に配布する。）
- 4 創立 40周年記念大会の開催及び記念誌の発行（記念式典、記念講演、祝賀会を開催する。合わせて記念誌を発行する。）
- 5 栃木県公衆衛生大会・学会への協賛・参加（8月開催の同大会の協賛及び学会での研究発表を行う。）
- 6 くすりと健康の週間における行事の開催（10月にベルモール（宇都宮市）で開催される、同週間における行事（薬の展示・相談会）を開催し、医薬品・医療機器等の重要な役割について啓発活動を行う。）
- 7 優良施設の視察研修（県内外の医薬品・医療機器等の製造工場の視察研修を行う。）
- 8 学生の工場見学会の開催（医薬品・医療機器等についての認識を深めてもらうため、県内の理工系・医療系学生による工場見学会と懇談会を開催する。）
- 9 会報の発行（「栃薬工だより」を定期的に発行し、会員への情報提供を図る。）
- 10 薬用植物の普及啓発（県が開催する薬草教室に協賛し、薬用植物の正しい知識について啓発を行う。）
- 11 災害時における避難所配置用医薬品等の備蓄（県と締結している「災害時における物資の供給協力に関する協定」に基づき、災害発生時に避難所等において必要な医薬品等を備蓄する。）
- 12 その他（その他、必要な事業について、理事会の決議を経て実施する。）

■平成 26 年度 収入支出予算

定期総会で可決された平成 26 年度一般会計予算は次のとおりです。

収入の部

科 目	予算額
1 会 費	5,090,000
2 県からの受託金	0
3 事 業 収 入	35,000
4 雜 収 入	50,678
5 繰 越 金	268,322
収 入 合 計	5,444,000

支出の部

項 目	予算額
1 会議費	320,000
1 定期総会	200,000
2 理事会等	120,000
2 事務費	2,300,000
1 職員費	1,960,000
2 事務費	330,000
3 事務局活動費	10,000
3 事業費	1,503,000
1 研修会費	1,000,000
2 表彰費	0
3 啓発費	283,000
4 会報発行費	220,000
4 負担金	220,000
1 事務所負担金	200,000
2 各種協議会等	20,000
5 記念大会等準備積立金	400,000
6 予備費	701,000
支 出 合 計	5,444,000

また、創立 40周年記念事業に係る特別会計（予算額 2,763,000円）も合わせて可決されました。

■新役員あいさつ

人事異動等により新たに就任された理事・監事の方々からご挨拶をいただきました。

栄研化学株式会社 阿部 克司 様（理事・副会長）



この度、前任の窪田から引き継いで、栃木県薬事工業会の副会長を務めさせていただくことになりました、栄研化学（株）生産統括部那須工場の阿部です。

弊社は臨床検査薬の専業メーカーであり、那須工場は、1984年に東京都北区から、免疫化学反応を原理とした高感度分析試薬の開發生産業務を移転して、操業を開始しました。

現在は、免疫化学測定法に加え、遺伝子増幅法を原理とした検査薬の開発製造を行い、免疫試薬の便鮮血検査試薬は、大腸がん検診で広く使用していただいております。私自身は、入社以来、生産、研究開発関連業務に従事して参りましたが、昨年より現職に就き、薬務課、薬事工業会の皆様には、何かと御指導をいただくことが多い業務に携わっています。

今後、薬事工業会発展のため、微力ながら副会長としての職務を果たして参りたいと思いますので、御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

株式会社ナカニシ 神山 尚之 様（理事）



この度、栃木県薬事工業会の理事を務めさせて頂くことになりました、株式会社ナカニシの神山です。

弊社は、1930年の創業以来、モットーである「堅牢、優美にして適正廉価」なモノづくりを企業理念として、歯科医療用製品、外科医療用製品、一般産業用製品の3つの事業領域において、顧客ニーズを捉えた製品を提供して参りました。そして現在、海外販売拠点13カ所、全世界135カ国に製品を輸出しており、特に歯科用回転機器の分野では、世界シェアNo.1を実現するに至りました。私自身、現在、ナカニシ本社の管理本部に席を置き、品質保証部、カスタマーサービス部、国内OEM部の4部門を管掌しております。

薬務課並びに、薬事工業会の皆様には、日頃から多大のご指導、ご鞭撻を賜り、心から厚く御礼申し上げますと共に、今後とも薬事工業会の発展のために、微力ではありますが理事としての役目を果たして参る所存ですので、何卒、よろしくお願い申し上げます。

持田製薬工場株式会社 小山 定利 様（理事）



この度、前任の溝田から引き継ぎ、栃木県薬事工業会の理事を務めさせて頂くことになりました、持田製薬工場株式会社の小山です。

弊社は、持田製薬グループの医薬品製造会社として2005年に独立しました。豊かな自然に囲まれた栃木県・大田原市に本社工場を構えています。他社からの受託製造にも積極的に取り組んでおり、欧米の品質管理水準にも対応した機器と設備でお客様の多様なニーズやスケールにお答えしております。また、新薬開発メーカーとしての確かな品質保証と高度な製剤技術で、高品質の医薬品を安定的にお届けしております。私自身は、現在、品質管理、サイトQA（品質保証）業務を担当する部門に所属しております。

これまで、薬務課、薬事工業会の皆さまには多大なご指導、ご鞭撻を賜っており、大変感謝しております。

今後も薬事工業会の発展のため、微力ではありますが理事としての職務を果たして参りますので、何とぞよろしくお願いいたします。

平成 26 年度 栃木県薬事工業会役員一覧 (敬称略)

平成 26 年 11 月 1 日現在

役職名	氏 名	会 社 名	役職名	氏 名	会 社 名
会 長	松谷 正光	マニー(株)	理 事	竹内 雄一	グラクソ・スミスクライン(株)
			理 事	三上 直子	(株)シーボン
副会長	阿部 克司	栄研化学(株)	理 事	三谷 豪	シミック CMO 足利(株)
副会長	富永 英夫	ジェーピーエス製薬(株)	理 事	金沢 孝基	中外製薬工業(株)
副会長	小野塚 文雄	不二ラテックス(株)	理 事	畠中 昭徳	東芝メデイカルシステムズ(株)
			理 事	神山 尚之	(株)ナカニシ
監 事	稻見 文夫	花王(株)	理 事	木幡 康則	日本ファクトリ工業(株)
監 事	栄谷 治	興和(株)	理 事	田中 哲好	久光製薬(株)
監 事	若目田 知明	全薬工業(株)	理 事	柳堀 和生	フォルテグロウメディカル(株)
			理 事	小山 定利	持田製薬工場(株)

事務局（業務課職員）の転入・転出

転 出			転 入		
役職名	氏 名	転 出 先	役職名	氏 名	前 所 属
参事兼所長	八島 利光	保健環境センター	業務課長	高山 尚志	今市健康福祉センター
主 任	新井 和男	県北健康福祉センター	技 師	橋本 昂浩	栃木健康福祉センター

■ 52回栃木県公衆衛生学会開催

平成 26 年 8 月 27 日 (水)、第 52 回栃木県公衆衛生学会が宇都宮市内の栃木県総合文化センターで開催され、興和株式会社様、マニー株式会社様、フォルテグロウメディカル株式会社様の計 3 社が、高山薬務課長の座長のもと、それぞれの日頃の業務に係る成果を発表されました。活発な質疑応答が行われ、大変充実した学会となりました。

「医薬品の製造販売業における 原材料の供給業者管理とリスク管理」

興和株式会社 品質保証部

土居 増彦 様



「中国における医療機器の登録申請 および法規制の改正」

マニー株式会社 QA 室

李 文昌 様



「図面作成時間短縮への取り組み」

フォルテグロウメディカル株式会社

技術部 生産技術課 板坂 拓 様



「県内理工・医療系学生のための工場見学会」開催

平成17年度から、薬事工業会事業として、県内の理工・医療系学生を対象とした医薬品や医療機器等の製造工場の見学会を開催しておりますが、今年度は、医療用医薬品メーカーのグラクソ・スミスクライン株式会社様の御協力を得て、9月3日（水）に開催いたしました。今回は、宇都宮大学、足利工業大学、国際医療福祉大学の学生及び関係者合わせて27名が参加しました。宇都宮駅を11時に出発したバスは、一路日光市へと向かいました。途中昼食をとて、午後1時に日光市土沢にあるグラクソ・スミスクライン株式会社今市工場に到着しました。

ミーティングルームに御案内いただき、工場見学会が始まりました。同社生産本部品質部門の竹内部門長様の進行のもと、まず薬事工業会の松谷会長が御挨拶し、同社生産本部のJim Fox本部長様からの歓迎の言葉、そして会社概要等についての御説明をいただきました。その後、3班に分かれて、各自更衣（タイベックス：使い捨てのつなぎ服を着用）の上、工場内を見学いたしました。錠剤の包装ラインや試験検査室等を見学させていただきましたが、担当者の方から分かりやすい説明があり、見学中の質問にも丁寧にお答えいただきました。

見学後は、Jim Fox本部長様・竹内部門長様と学生とのディスカッションとなり、和やかな雰囲気の中にも、貴重な意見交換・質疑応答がなされ、学生たちにとって大変充実した経験となったことだと思います。学生からは、「原料の購入受入れ段階から、これほど徹底した品質管理がなされていることに驚きました」との発言もあり、Jim Fox本部長様から、とても良い所に着眼しているとお褒めの言葉もいただきました。また、「製薬会社への就職を希望しているが、学生の間に行っておいた方が良いことはありますか?」との質問に対して、竹内部門長様から、御自身の経験も踏まえて、自由に勉強や研究に打ち込める学生時代には、その時に専攻している勉強や研究にしっかりと取組むこと、そしてその経験が、結果的に企業に入っても役立つことや、英語力をできるだけ身につけておくことが大切であるとのお答えをいただきました。（見学会後のバス中で行ったアンケートでも、全学生から大変良い見学会だったと、感激の回答がありました。）

結びに、薬事工業会の阿部副会長が御礼の言葉を述べ、大変有意義な見学会は午後4時に終了しました。管理棟の明るいエントランスホールで記念撮影をさせていただき、同社を後にしました。

最後に、今回の見学を快く承諾していただいた同社の竹内部門長様始め、社員の皆様には多大なる御協力を賜りました。紙面をお借りして、改めて厚くお礼申し上げます。



Jim Fox 本部長様



竹内部門長様



見学の様子



エントランスホールにて

■ 優良施設視察研修会

平成26年度の優良施設視察研修会は、10月15日（水）、埼玉県内にある医療機器製造工場と医薬品製造工場の2施設を訪問いたしました。会員会社20社から37名、及び事務局3名の計40名の参加でした。午前8時20分、貸切バスで宇都宮駅東口を出発し、鹿沼ICから東北自動車道に乗り、埼玉県を目指しました。羽生ICで降り、最初の視察先である『株式会社幸大ハイテック羽生工場』（埼玉県羽生市大沼2-45）に到着しました。会社概要・事業内容の説明を受けた後、3班に分かれての工場見学となりました。同社では、ハードウェア・ソフトウェア・パターン設計・FA（メカトロ）などのノウハウや新技術を用いた、開発・設計・試作・製造・量産などのトータルサポートを行っており、医療機器としては、学校での聴力検査に使用されるオージオメーター等を製造しています。同社の御担当者の方々には、製造現場を詳細にご案内いただくとともに、5S・VM活動についても御紹介いただきました。また、同社が開発したデジタルセル生産システム（熟練工の技術を、経験の少ない従事者でも再現できるという画期的なシステム）についても御紹介いただきました。意見交換会でも様々な質問に丁寧に答えていただきました。最後に全員で記念撮影をして、工場を後にしました。

昼食は、幸手駅前の日本海庄や幸手店の宴会場で、刺身定食をいただき（アルコールならぬウーロン茶付き）、午後の視察先である『高田製薬株式会社幸手工場』（埼玉県幸手市上吉羽2100-25）に向かいました。

同工場は、今年5月に竣工したばかりで、白い大きな建屋が遠くからもとても目立っておりました。工場に到着すると、オリエンテーションの後、こちらでも3班に分かれての見学となりました。同社の御担当者の方々には、新しい施設内を詳細に御案内いただき、現場での質問等にも御丁寧に対応いただきました。特に驚いたのは、同工場の製造能力で、年間で顆粒600t、錠剤20億錠、高活性製剤2億錠を製造できるということです。また、高活性製剤製造設備は、最新の封じ込め技術（3極GMPに準拠）により一般製剤エリアと完全に分離されています。その厳しい製造管理・品質管理は、「日本の企業として、世界中の人びとの健康を願って、高品質で高付加価値な医薬品の開発にチャレンジする」という、同社の企業精神を感じさせるものでした。意見交換会後、記念撮影をして、宇都宮への帰路につきました。

今回の優良施設視察研修会では、（株）幸大ハイテック羽生工場様、高田製薬（株）幸手工場様ともに、お忙しいところ視察を御快諾ください、また、当日は皆様に懇切丁寧に御対応いただきました。

この紙上をお借りして厚く御礼申し上げます。



（株）幸大ハイテック様（説明風景）



（株）幸大ハイテック様（記念撮影）



高田製薬（株）様（説明風景）



高田製薬（株）様（記念撮影）